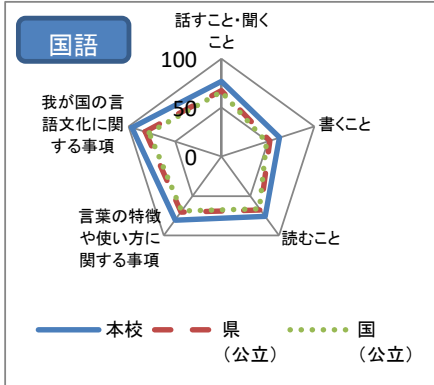


令和4年度全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【国語】

海田町立海田西 小学校

本年度正答率(本校 %、県 %、国 %)	本年度の結果について
----------------------	------------



○全体的な傾向について
国語科の平均正答率は77%で、県平均を10ポイント上回った。また、どの領域も県平均を上回り、特に、「B 書くこと」の項目が10.4ポイント上回っていた。記述式の問題においても、正答率が県平均よりも12.1ポイント上回っていた。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度、条件を確認して答える力が弱いという課題があった。そこで、学習活動全体を通して、何について聞かれているのか、どう答えたらよいか、問われていることを明確にして学習に取り組んだ結果、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題」に対し、通過率が53.6%で、県平均を12.8ポイント上回ることができた。

重点課題
【課題1】 表現の効果を考える。物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることができていない児童が42.9%、正答率57.1% (県平均60.9%)
【課題2】 話し言葉と書き言葉との違いを理解する。聞き手の誤解をまねかないようにしていることを捉えていない児童が17.9%、正答率82.1% (県平均86.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
教科書に出てくる物語文を取り上げ、あらすじ程度の文章をまとめ全体像をつかませる。そして、印象に残った表現や作者の工夫が分かる表現など表現方法に着目させたり、表現と主題との関係について考えさせたりする。	表現の効果を考えさせよう
国語科の書く学習において、文章を書いた後で指導に基づいた文章が書けているか推敲させる。お互いの文章で確認することを意識的に仕組み、表現のよさを友達の文章から見つける授業を仕組む。	友達の文章のよさを見付けさせよう

令和5年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
県平均+10ポイント

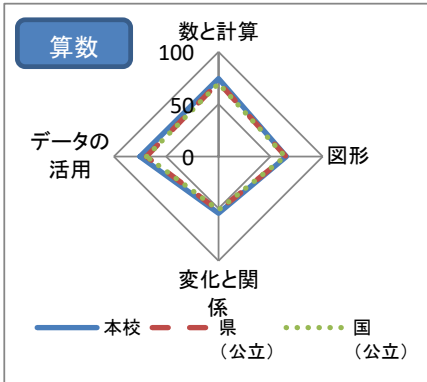
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法		全学年 物語文単元	全学年 学期末テスト(物語文の問題)	全学年 CRT標準学力調査	全学年 物語文	全学年 学期末テスト(物語文の問題)	R4全国学力調査(読むことの問題) 5年
目標値			全国平均を上回った 人数の割合80%	全国平均を上回った 人数の割合70%		全国平均を上回った 人数の割合80%	全国平均+5ポイント
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法		全学年 書く単元		全学年 CRT標準学力調査 「書く」(作文)問題		全学年 書く単元	R4全国学力調査(書く問題) 5年
目標値				全国平均を3ポイント 以上上回る。			全国平均+5ポイント
実施後数値							

令和4年度全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【算数】

海田町立海田西 小学校

本年度正答率(本校 %、県 %、国 %)

本年度の結果について



○全体的な傾向について

算数科の平均正答率は67%で、県平均を3%上回った。各領域別の平均正答率を見てみると、「数と計算」74.4%(県平均70.8%)、「図形」65.2%(県平均64.8%)、「変化と関係」54.5%(県平均51.3%)、「データの活用」75%(県平均68.9%)で、概ね定着が図られている。一方、問題形式については、「選択式」、「短答式」は、ともに県平均より上回ったものの、「記述式」60.7%(県平均61.9%)は県平均を下回り、課題が見られる。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度、課題が見られた「図形」の領域の指導については、図形と式、言葉に関連付けて説明することを重点的に指導した。本年度の「図形」に関しては、プログラミングの要素を取り入れた出題となっているものの、本質的には図形の構成の仕方に着目するものであり、「正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること」に対して、通過率が42.9%(県平均48.9%)で県平均を

重点課題
<p>【課題1】 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること。正答率57.1%(県平均64.8%) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と考えを記述すること。正答率42.9%(県平均49.9%)</p>
<p>【課題2】 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること。正答率42.9%(県平均48.9%)</p>

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>数直線や線分図に数や矢印、言葉等を書き込み、問題場面の把握を行ったり、図と式を関連付けながら説明したりする活動を設定する。また、変化や対応の特徴について、その規則性を見出すだけでなく、数を用いた式に表せないかと考えるなど、式で考察するようにさせる。「日常の具体的な場面」「図や表」「数や式」を相互に関連付けて、割合について理解することができるようにする。</p>	<p>「日常の具体的な場面」「図や表」「数や式」を関連付けて説明させよう</p>
<p>プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行うようにする。汎用的な力を育成するために、正確な繰り返し作業を行ったり、命令の一部を変えることでいろいろな正多角形を作図させる場面を設定したりする。また、低学年時から、色板遊びや敷き詰め、複合図形の考察等、身の回りの図形を多面的に捉えることができる数学的活動を設定する。</p>	<p>具体的な数学的活動を通して、実感を伴う理解をさせよう</p>

令和5年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
<p>県平均+5%</p>

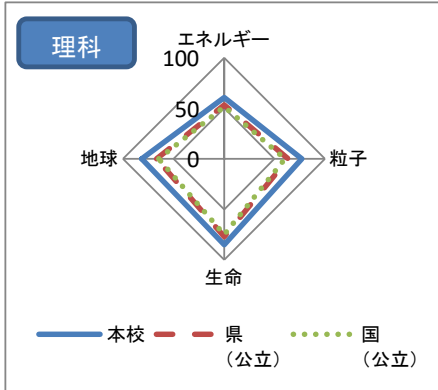
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法		4年・単元末テスト(倍の見方)	5年・単元末テスト(単位量あたりの大きさ)	全学年・CRT標準学力調査		5年・単元末テスト(割合)	5年・R4全国学力調査(「変化と関係」領域)
目標値		単元末テスト:正答率85%	単元末テスト:正答率85%	全校平均を上回った人数の割合70%		単元末テスト:正答率85%	平均正答率 県平均+5ポイント
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法			5年・単元末テスト	全学年・CRT標準学力調査		4年・単元末テスト 4年・算数のツボ(面積のはかり方と表し方) 5年・単元末テスト(多角形と円をくわしく調べよう)	5年・R4全国学力調査(「図形」領域)
目標値			単元末テスト:正答率85%	全国平均を上回った人数の割合70%		単元末テスト:正答率85% 算数のツボ:正答率75%	平均正答率 県平均+3ポイント
実施後数値							

令和4年度全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【理科】

海田町立海田西 小学校

本年度正答率(本校 %, 県 %, 国 %)

本年度の結果について



○全体的な傾向について

理科の平均正答率は76%で、県平均を10%上回った。各領域別の平均正答率を見てみると、「エネルギー」が60.7% (県平均53.3%), 「粒子」が77.1% (県平均63.6%), 「生命」が85% (県平均が77.1%), 「地球」が81.4% (県平均66.7%)で、概ね定着が図られている。一方で、課題発見や条件制御、表やグラフの分析に課題が見られる。

重点課題

- 【課題1】**
気付きや分かったことから、新たな問いを発見し、問題解決の見通しをもつこと。正答率53.6% (県平均43.2%)
- 【課題2】**
実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと。正答率42.9% (県平均38%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ・課題設定の際に、既習内容や生活経験、差異や共通点を基に、問題を見出させる。
- ・予想や仮説をもたせ、それらを基にして、観察、実験などの解決の方法を考えさせる。
- ・結果分析の際に、学習課題に立ち返ることで、分析の視点を明確にする。
- ・結果から分かったことを自分の言葉で表現させる活動を取り入れ、書く時間を十分確保する。

全校での目標(キャッチフレーズ)

- 「なぜ? どうして?」から始めよう! ~問題解決の見通しをもたせよう~
- 「理科の見方・考え方」をはたらかせて、自分の言葉で書かせよう!

令和5年度 全国学力・学習状況調査 数値目標

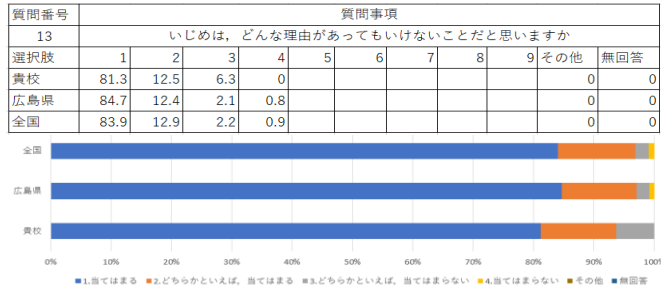
県平均+10ポイント

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法			3学年単元末テスト (太陽の光を調べよう)	3・4・5・6学年 CRT標準学力調査		4学年単元末テスト (水のすがたと温度)	5学年 R4全国学力調査 ②(粒子領域)
目標値			単元末テスト正答率85%	全国平均を上回った 人数の割合70%		単元末テスト正答率85%	全国平均+10ポイント
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法		6学年単元末テスト (てこのはたらき)	5年単元末テスト (もののとけ方)	3・4・5・6学年 CRT標準学力調査		3学年単元末テスト (じしゃくにつけよう)	5学年 R4全国学力調査 ③(エネルギー領域)
目標値		単元末テスト正答率85%	単元末テスト正答率85%	全国平均を上回った 人数の割合70%		単元末テスト正答率85%	全国平均+7ポイント
実施後数値							

令和4年度指導方法等の改善計画について【質問紙】

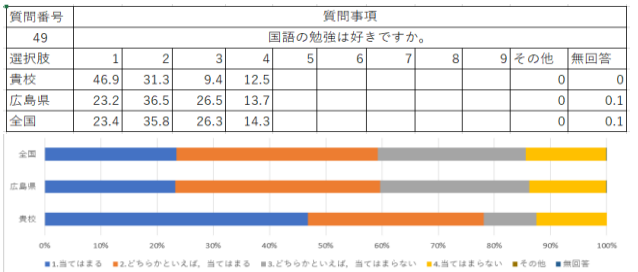
(全国学力・学習状況調査 質問紙)

(1)生活・学習

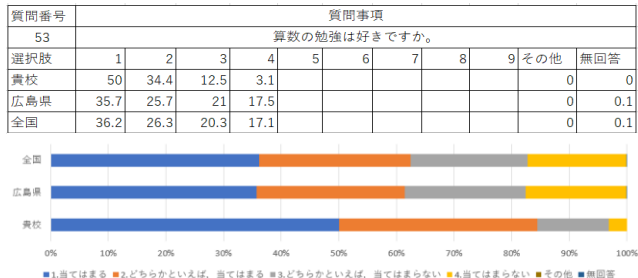


児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
質問(13)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的評価が93.8%で県平均より3.3ポイント低かった。	日頃から、いじめはダメだと言える学級集団を育てる。	6年	100%	児童アンケート	3月		

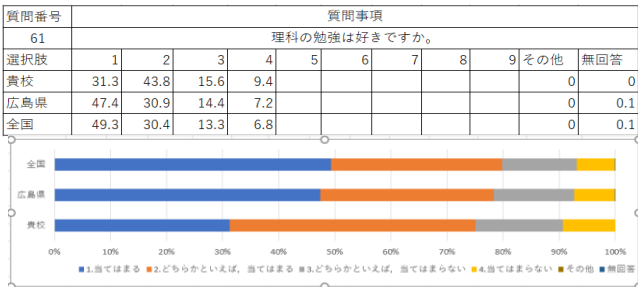
(2)教科



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
質問(50)「国語の勉強は大切だと思いますか」の肯定的評価が100%に対して、質問(49)「国語の勉強は好きですか」の肯定的評価が78.2%となっており、「大切」と「好き」にズレがある。	否定的回答をしている児童は、読み書きを苦手としている。まずは、読書に親しむ場を設定し、活字に触れる機会を多く設定する。	6年	85%	児童アンケート	3月		



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
質問(54)「算数の勉強は大切だと思いますか」の肯定的評価が96.9%に対して、質問(53)「算数の勉強は好きですか」の肯定的評価が84.4%となっており、「大切」と「好き」にズレがある。	朝学習や家庭学習等も活用しながら反復学習を徹底し、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ることで「分かる」を増やし、自己肯定感を高める。	6年	90%	児童アンケート	3月		



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
質問(61)「理科の勉強は好きですか」の肯定的評価が75.1%で、県平均より3.2ポイント低い。	新たな課題の設定や実験方法など、子どもたちと話し合いながら授業を行うことで、学習を自分事にさせる。また、コロナ化でも工夫しながら実験を行うことで、体験的に理解を深めさせる。	6年	80%	児童アンケート	3月		